

胃がん検診と保険診療での内視鏡検査の違い

胃がん検診	保険診療
目的	
胃がんでなくなる方を減らすことが目的。早期がんの発見を目標とはしていない。	病気の有無やその原因を調べる。がんについては早期がんの発見を目標とする。
対象者と対象となる病気	
50歳以上で、原則、病気がない方。病気は胃がんのみが対象。食道がんは対象外。例えば、食道がんが疑われた場合、後日保険診療で内視鏡を行い、生検することになります。	病気を疑う方。健康な人には行わない。全ての病気が対象。食道がんも含まれる
内視鏡方法	
原則、経鼻内視鏡	経口あるいは経鼻内視鏡
生検	
10%以下に抑えるよう目標が設定されているため、微小ながんについては生検しない可能性がある。⇒ 保険診療と比べ精度が低くなる可能性があります。	10%以下という目標はない。微小ながんについても生検します。
鎮静	
原則、行わない。行う場合は、費用は自費負担。¥4,860	今まで通り、必要に応じて、保険診療で行う。約¥1,500 (3割負担の方)
費用	
¥1,500 生検1臓器あたり：¥3,960 (3割負担の方) 胃がん検診のため、食道の生検は行いません。鎮静をした場合、保険診療に比べ高額になる可能性があります。	¥3,500～ (3割負担の方) 生検：1臓器あたり¥3,960 (3割負担の方)。食道と胃の生検を行った場合は2臓器となります。予約料として¥1,500 をご負担いただいております。
結果説明と検査間隔	
生検なし：5週間以降・あり：7週間以降 間隔は2年に1回	生検なし：翌日以降・あり：2週間後以降 間隔は必要に応じて決める
ピロリ菌の診療	
診療対象外	胃がん、胃炎の原因であり、内視鏡の際に血液検査等含め診断も行う。

当院は保険診療で内視鏡を受けることをお勧めいたしております。